名古屋
石田学園報
第11号　平成 11(1999).5.20

名古屋明徳短期大学
星城高等学校
星城中学校
星の城幼稚園
名英予備校
名英図書出版協会

充実した人生

理事長・学園長　石　田　正　城

今年のゴールデンウィークは婚礼、葬儀で過ぎてしまった。昔は余暇を楽しむという余裕も場所もなく冠婚葬祭が唯一の楽しみでもあり、お祭的な感覚であったと思う。その風習は簡素化されたとはいえ、伝統的な文化として残っていることは良いことである。時期もよく結婚式は数回も参列し若い二人、両親の素晴らしい笑顔に接すると共にこれからの人生に祝福を願った。本学園創立者の知己で私も色々と御指導をいただいている岡山県の加計学園（岡山理科大学、倉敷芸術科学大学、吉備国際大学、九州保健福祉大学、短大・高校等傘下校26校）の理事長加計勉先生の後継者の披露宴に招待を受けた。学園の将来を託してお育てになられた優秀な人材であられ、実に 550人もの御来賓の盛大な結婚式で驚きと理事長先生の交友の広さ、卓越な人徳のなすことだとつくづく感心しました。

私立学校の創立精神を脈々と継承していくことは誠に難しいことである。社会環境の変化の中で、ただ経営のために理念が葬り捨てられたり、成績は優秀な学生が集まり、就職面では名のある古い学校であるが、建学の精神である創立者の思想・人間性等が全く高揚されていない大学も多い。学校の規模が大きくなればなるほど、時代が過ぎれば過ぎるほど、継承は難しくなることは当然だが、私立学校から建学の精神が薄れ無くなることは「命」を絶つことであり、もはや存在の意義は無い。少子化、私学助成金削減という大きな時代の変化の中で、本学園も如何に創立者の理念を継承するかによって将来が決まってくる。これからの後継者は従来のようなピラミッド型で一人の者がリーダーシップを取るのではなく、全職員が創立者の理念を体しそれぞれの力を各所で発揮し「一隅を照らす」努力が必要である。また本学園の規模から肥大化する他学園に伍して経営をしていくには、学園傘下の各校の相互の協力と関係を強固なものにしていく以外に方法はないと判断している。

50歳代の半ばを迎え、立場上も関係して最近は葬儀に参列する機会が非常に多い。生徒、卒業生、御世話になったり、御指導をいただいた方、知人・職員の身内で今まで拝顔をいただいていない方、等々かなしみの中に種々想い出を語っていただくとそれぞれに充実した人生を全うされているように思える。「棺を蓋いて事定まる」詩人杜甫の言葉である。人間の評価は死んでから決まる。死ぬまで最善の努力を惜しむなという意味である。

戦国武将の織田信長は舞げ舞いを好んだ。出陣の前にひとさし舞い戦場にのぞむ覚悟を決めたといわれる。信長は謡曲「敦盛」の一節を好んだ。「人間50年下天のうちをくらぶれば夢幻のごとくなり。ひとたび生を享けて滅せぬもののあるべきか。」下天とは仏教における欲望の世界である。この世界には四段階があり、その一番下位が四王天で下天ともいう。下天の一日一夜が人間世界の50年にあたるので、過ぎてみれば夢のようにはかない人生を表す比喩に使われるようになった。こんな思想から、信長は凄まじいまでの攻撃性の持主であったとともに極めて日本人的な虚無観の性格で一日一日を充実した人生を送ったものと思われる。

本学園創立者石田鐵徳先生は座右の銘として「ここをしも悟りの峰と想ひしは迷いに降る始めなりけり」「こころだに誠の道にかなひなば祈らずとて神や守らん」と詠まれた。死ぬまで最善の努力をとの教えである。杜甫、信長等歴史に名を残された方に共通している考えである。本当の幸福な人生とは快楽を得ようとひたすら努力することでなく、努力の真っ直中に、また努力の後にあるものだと思う。

最近、御逝去された方々の御冥福をお祈りするとともに我々も石田学園傘下の学校に奉職した御縁からそれぞれの使命を全うしたいものである。

新学長に聞く

名古屋明徳短期大学長 織田 晃

新学期恒例の伊良湖ビューホテルにおける「新入生オリエンテーション合宿」に同行して、極めて有意義な企画であることを改めて知るとともに、先生方が「学生本位の教育」を日常的に実践されてみえる姿に接し、大変心強いものを感じました。

今日の短大は、18歳人口の減少・女子の四大志向の高まり・専修学校からの四大編入制度新設等の厳しい状況の中に置かれ、全ての短大がこれまでと同じ状態で存続し続ける事が難しいのは事実です。

このような状況の中で、本学として留意すべき第1点は、送り手である高校側が本学をどのように評価しているのか、短大の教育に何を期待しているのか、市場原理とも言うべき高校現場の生の声に、まず耳を傾ける必要があるということです。

第2点としては、本学の教育方針・内容・制度・実績等が高校側にどこまで理解されているのかを把握する必要があります。発信する情報が十分かつ精選された、適切なものであることは当然ですが、分かりやすいものかどうかも問われます。

第3点は、本学の現状を鑑みれば、以上の事について全教職員が共通認識を深め、知恵を出し合い、全ての営みの中で、学生確保ということを念頭に置いた教育実践、運営に努めることだと考えています。

短大を取り巻く状況には確かに厳しいものがありますが、社会全体の動向を見れば、入学式の式辞でも申し述べました通り、少子高齢化社会・男女共同参画社会への移行に加えて、情報・交通手段の著しい発達を背景にした大交流・大競争時代の到来が確実視され、これらの社会的要請に的確に応えていくことがこれからの短大、特に英語科・国際文化科を擁する本学の使命であると言えます。

本学の将来を考えれば、教育研究条件の充実等いくつかの課題がありますが、今日的にはまず本学の「存在感」を高めることが不可欠なことであり、そのためには入り口から出口まで、これまでの教育実践を基盤にしつつ、補完的な教育活動の分野でも新しい試みを実践に移していくことが喫緊の課題であると考えています。

今、求められているもの

星城中学校長 石田英城

大人社会のモラルの低下、過保護が生んだけじめの崩れが家庭を含め、学校、地域社会で大人とこどもたちの距離を遠いものにしている現状の中で、家庭や社会における規範の意味、自由と責任、権利と義務について、また、中央教育審議会答申にある「生きる力」を育むために、大人が子どもたちに規範を示す教育力が、今強く求められています。

「親の心子知らず」が「子どもの心親知らず」とも言われている状況の中、ややもすると親や教師が子どもを教え諭す一つ一つの言葉が、自分の意のままにならない子どもをなじるだけの言葉になっているのではないか。子どもたちの問題は、実は私たち大人が抱えている問題の裏返しでもあることを、反省すべきではないかという気がします。

教師は「教える」という立場に常にあるため、知らず知らずのうちに教わるということに謙虚になれず「井の中の蛙」と言われがちです。このようなことがないよう、システム、カリキュラムなどの技術的な問題ばかりに力を入れるのではなく、私ども教師も子どもたちに、学ぶことの喜び、自信をつけさせる教育施策を実施するとともに、何が不易で、何が流行かを十分認識させ、生き方の基本を指し示していく必要があります。

本校の「建学の精神」と教育の目標である「感謝のできる実戦力に富んだ逞しい人間の育成」は、心の教育から知的教育、問題解決能力への流れを汲んだ、まさに教育の目標は人格形成であるという素晴らしいものであります。社会の私学に寄せる期待に応えるべく、私どもはこの校訓のもと、星城教育に自信と誇りを持って、教育の真価が問われている羅針盤なき今の時期に、対応できることを内外に訴えていくべきだと思います。

また、今日のような価値観の多様な複雑な時代こそ、外に向かって、他に向かって、批判や要求をするのではなく、私ども教師の果たす役割を、教師自信の姿勢をどうすべきかを再確認し、自らの「脚下」を向いて諸問題に取組む姿勢がより大事であると考えます。

平成11年度　入　学　式

名古屋明徳短期大学

平成11年4月3日、澄み切った青空の下、平成11年度名古屋明徳短期大学の入学式が本学講堂（体育館）にて挙行されました。本年度は英語科97名、国際文化科72名、専攻科（国際文化専攻）4名の本科生 169名、専攻科4名の計173名が入学し、式に集いました。

式では、今年度から新しく学長に就任された織田晃学長が、式辞の中で短大生となるに当たっての自覚を促し、続いて在校生を代表して英語科2年の常見梨枝さんが歓迎の辞の中で、短大生活における貴重なアドバイスを述べました。これに応えて新入生を代表して国際文化科の徳増真里さんが、入学に当たっての抱負を述べました。

本年度は、本学の開学から丁度10周年を迎え、その記念行事として招聘された留学生も出席し、日本の入学式を体験しました。

式終了後、新入生たちはキャンパスの中で記念撮影や新たな友人たちとの歓談に興じていました。

短期大学をとりまく環境が変化する中で、新たな試みとして入学式終了後保護者を対象として、学長、両学科長等から本学の教育方針、留学、海外研修等本学特有の制度、短大生活を送る上での留意点等について説明するミーティングを催しました。希望者を対象としたものでしたが、約80名が参加し、保護者の方からは熱心な質問や意見が出され、本学の教育に対する高い関心がうかがわれ、有意義なものとなりました。

新入生は、翌週から学内及び伊良湖での合宿によるオリエンテーションから短大生活がスタートすることとなりますが、新たな生活に期待を膨らませているようでした。

星城高等学校

平成11年4月6日火曜日、校舎の桜が咲き競うかのような満開の中、期待と不安の入り交じった顔をしながら保護者に付き添われ校門をくぐる新入学生の顔が今でも脳裏を離れません。

学校長の「 897名（男 609名、女 288名）の入学を許可する」という入学許可宣言が終わると、やっと新入学生の顔に生気がよみがえったように感じたのは私だけだったのでしょうか。式典は進み、新入生を代表して鈴木さや香さんの「宣誓」が読み上げられる頃には、生徒達の顔には星城生らしい自信に満ち溢れた顔へと変貌していました。

当日はアメリカの姉妹校バックレースクールから8名（教師2名、生徒6名）が短期留学で来校中で、この祝賀に参列しお祝いのメッセージもいただきました。通訳として、新3年生になったばかりの後藤みどりさん（オーストラリアのネイグルカレッジへ1年間留学、平成11年3月帰国）が新1年生にメッセージを伝えました。

「誓いの言葉」は合否発表後、4回のガイダンスの中で唱和していたため、新入生はまごつくことなくスムーズに式も進行。本年より、このガイダンスの方法も内容を充実させようと、推薦入学生も一般入学生も入学が決定した最後のガイダンスで、入学の意識と決意を高める目的で、全職員分担して面接を実施。この効果が新入学生の学習・生活にプラスになり結実することを期待したいです。

また、本年度から星城高校は完全男女共学が始まりました（全22学級　内仰星コース3学級・特進文コース2学級・特進理コース1学級・国際コース1学級・普通コース15学級、そして男女共学学級14学級・男子単独学級7学級・女子単独学級1学級）。職員構成も校舎の名称も変わりました。担任紹介の時間になると、会場の生徒や保護者の間からはざわめきが起こる。毎年見られる光景で、入学式は無事終了しました。

星城中学校

平成11年4月2日金曜日、第7回入学生55名を迎えて、入学式が挙行されました。ご来賓として、都築豊明市長、瀧村市議会議長、宮崎市教育長、西澤後援会会長、織田短大学長、片桐高校学監の皆様にお越しをいただきました。

新入生代表から「私たちは、ただ今から本校の諸規則を固く守り、勉学に励みます。体も健康、心も健康、本校の誓いの言葉を尊び、星城中学生としての本分を全うすることを、ここにお誓いいたします。」という心強い宣誓がありました。また、入学にあたって2名の新入生が中学生としての心構え、抱負などの決意表明がなされました。

学校長から、今からは星城中学生として、建学の精神の中から特に報謝の至誠の話として「両親に対し、健康に恵まれ勉強に精進できる喜びを感謝いたします。」を引用され、今の素晴らしい環境を作っていただいた、お父さん、お母さんの愛情に対し、常に感謝する気持ちを忘れないでほしい。学習に対する基本姿勢の体得、人間形成への心構えを体得するための大切な6年間です。このことをよく心に刻み、有意義な学校生活、家庭生活を送ってほしいとの話がありました。また、理事長、都築豊明市長より祝辞が述べられ、生徒も緊張の中に、希望で胸が一杯の新しい門出を迎えたという実感がよく顔に出ておりました。

星の城幼稚園

平成11年4月5日入園式が行われました。年少組76名、年中組12名の入園児が真新しい制服に身を包んで、保護者の方に手をひかれ桜ふぶきの中を登園してきます。

保護者の方から離れられない子、泣けてしまう子などもいましたが、今年度は元気よく挨拶をする子が多いと感じました。クラスの名札を担任の先生に付けてもらって、体育室に入ります。

お客様として、豊明市議会副議長矢野先生、名古屋短期大学の大谷先生にご出席いただきました。初めての園行事に親子共緊張感はあるものの落ち着かず、ざわついた中入園式が始まります。

しかし、園長先生が「幼稚園時代はものを詰め込む時ではなく、ものを入れる器を大きくする時です。」と話をされ、鐐徳先生の言葉であり、幼稚園の教育目標である「はい、ありがとう、ごめんなさいの言える子は…」と続けられると、保護者の方々は大きく頷いていました。平日にもかかわらず、父親の参加も多く、夫婦で子育てをしていこうとする姿勢が感じられました。

初めての集団生活であり、初めて他人（先生）に身を委ねる時として、大切にしていかなくてはと職員一同も改めて感じました。

名英予備校

今年度より名古屋明徳短期大学オープンカレッジの業務に携わることとなり、各部門の応援を得ながら、4月より東海市会場（短大）で19講座、伏見会場（予備校）で22講座を開講することができました。

東海市会場では、多くの講座が定員に達し、申し込みを断らねばならないほど盛況でした。一方、伏見会場も、小学生から大正生まれの人まで、幅広い年齢層の受講者が集い、今までとは異なった雰囲気の予備校になりつつあります。なお、受講者総数は両会場あわせて約590名でした。オープンカレッジ開講に合わせ、玄関・ロビー・2階教室・トイレ等を改装。床もカーペットタイルを敷き、明るい雰囲気となりました。また、1教室をパソコンルームとし、開講に備え、18台のパソコンが設置されました。

従来からの大学受験科生のほか、4月より菊武学園の生徒32名が大学受験のための補習講座を受講しています。

平成11年度　卒　業　式

名古屋明徳短期大学

名古屋明徳短期大学卒業式・修了式が専攻科６名・英語科 117名・国際文化科95名総数 218名で３月19 日に実施されました（その他平成10年度としては９月卒業式７名）。

石田理事長をはじめ、久野東海市長等多くのご来賓の出席と袴姿の卒業生の華やかさは、開学10周年を迎えた本学の年度末行事にふさわしいものでありました。さらに開学以来短大の発展にご尽力された高橋学長がご退職されることもあり、学長式辞は卒業生・教職員の心に深く残るものでした。

また、同日夕方からは、卒業生・学生会企画の謝恩会が名古屋市内のホテルにて開催されました。短大生活の感謝を表すこの会には、卒業式のご来賓の方々や多くの教職員の出席があり、招待者の祝辞の後、卒業生代表者から学長へ記念品の目録が手渡されました（コンピュータシステム一式）。これにより在学生は、従来のコンピュータとともに学習面や就職活動等で幅広く活用できることになりました。

これら二つの行事は、年度の締めくくりとして今後も厳粛にまた華やかに実施したいと思います。

星城高等学校

平成11年２月23日火曜日、石川県会議員、都築豊明市長、そして出身中学校約65校の校長先生、父兄約300名、在校生達祝福の中688名（男451名、女237名）が巣立っていきました。

この688名はそれぞれの夢に向かって走り出しました。進路先は以下のとおりです。国公立大学延40名、私立大学延550名、短期大学延134名（内名古屋明徳短期大学35名）、専門学校122名、就職83名。

さて、この卒業証書授与式の模様は、久々に厳粛な雰囲気の中進行して来賓や保護者の間からは「さすが！星城生ですネ」「久々に素晴らしい式典に参列させていただきました」と絶賛の声しきり。保護者からは「立派な式典に参列させていただき、吾子の姿を見て感動いたしました」「感謝しております」 のお言葉をいただきました。

多方面から、このようなお言葉を多数いただく度に、やはり星城高校の教育方針、そして指導方針が誤っていなかったことを確認すると同時に、新たな教育と指導に向かって取り組む意欲を持つことができた次第です。

星城中学校

３月18日木曜日、後援会会長西澤様をはじめ、半谷・前川副会長、織田副学園長、片桐高校学監、舘教育顧問の方々をご来賓としてお迎えし、第４回卒業式を挙行しました。38名の生徒が大きな目標を胸に高校へ進学しました。

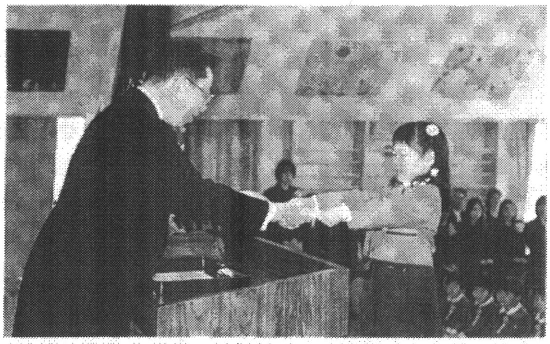
卒業式にあたり、３カ年リーダーとして、学校・学年行事に積極的に参加するとともに、何事にも精一杯の努力をしてきました下記の生徒を表彰し、その栄誉を称えました。

学校長賞：稲生慧、私学協会長賞：石田直之、中高連会長賞：青沼佐智代、後援会長賞：平尾圭一・村上摩由子、皆勤賞：鈴木逸斗。

学校長から、卒業式は中学校から高校への一つの節目です。新たな希望に胸を膨らましていることと思いますが、改めてここまで成長させていただいたご両親に感謝をすべき日でもあることを忘れないでほしい。４月からは高校生となりますが、中学の基礎の上に立って、さらに人格形成の上で、学習面の上で、自主的に行う自覚と向上の心をもって進んでほしいとの言葉がありました。

星の城幼稚園

平成11年３月12日明るい青空の下、園児79名が巣立っ



ていきました。お客様に学園理事の浦野先生と副学園長の織田先生をお迎えして、卒園式が始まりました。園児がにこやかな中にも緊張しながら入場し、よい緊張感の中、卒園式が進んでいきます。

園長式辞では「儀式に臨む態度が3年間に培われ、セレモニーをセレモニーとして受け止めている」と園児達の成長をお話いただきました。また、来賓祝辞に続く保護者代表謝辞では「星の城幼稚園の教育方針に同感し入園させたが、先生達が本当によく子供達の心を理解し育ててくれた」と感謝の言葉をいただきました。園児も「お別れの歌と言葉」を元気よく気持ちを込めて話したり、歌ったりすることができました。幼稚園生活一番最後の日として、一時間強の卒園式にまさに園長先生のお話のように立派に臨むことができました。終了後、記念撮影をしたり先生にプレゼントを渡したり、保護者も園児も名残が尽きないようすでした。

平成10年度　各種行事

名古屋明徳短期大学

◎専攻科修了生6名に学位授与

1997年度専攻科修了学生のうち6名について、学位授与機構より学位(教養学士)が授与されました。そこで、6月27日に、学位授与記念式が開かれ、後田専攻科長の挨拶、学長の祝辞のあと戴帽式が、引き続いて記念撮影、懇親会が和やかに行われました。

このことは、学位を取得した本人はもとより本学としても極めて喜ばしいことであり、後に続く者にも明るい展望を与えてくれるものだと思われます。

◎開学10周年で海外留学生5名を招聘

本学開学10周年記念事業の一環で、海外留学生を中国、オーストラリア、トルコから各1名およびインドネシアから2名の計5名招聘しました。

9月21日には彼女らの入学式および歓迎会が開かれました。彼女らはこの1年間、本学をベースに日本の伝統文化・風俗を学び体験しようと、いろいろな催し・行事に積極的に参加しています。

◎第9回学園祭ー秋桜祭ーの開催

10月10日、11日には秋桜祭が開催されました。テーマは「華になれ」で、女性のもつ華やかさや優雅さをより前面に出そうとしたものです。成功裏に終了した秋桜祭は、参加学生の心に、他では味わえない深い達成感を与えたことと思われます。

星城高等学校

◎男女共学に向けての条件整備進む

2011年の学園創立70周年に向けて、1・2号館の全面改築を含む総合的な将来構想として校内に平岡教学室員を迎え、2011年委員会を発足させ、長期的展望と短期的展望（平成11年度よりの男女共学の実施）についての検討をしてまいりました。男女共学が社会の趨勢の中、星城方式による男女共学の完全実施を目指し、学習指導関係ではカリキュラムの統一、成績評価の問題、学級崩壊が叫ばれる中如何に個性を尊重し、わかる授業への取り組みをどう構築していくか。生徒指導部では男子部・女子部との総点検と統一を目指しての職員の意思統一、躾の星城にふさわしい生徒指導の在り方の模索、進路指導部では共学における新たな進路体制の確立、補習の在り方、また新たな学校組織作り、職員配置の問題、施設面では女子更衣室の新設、女子トイレの新設、教室配置の問題等あらゆる面での検討を重ねた結果、平成11年度よりこれらの問題を何とかクリアし、男女共学の第一歩を踏み出すことができました。

◎平成10年度を振り返って

4月25日～　1年校外ＯＲ（1・2号館は27日～）

4月25日　レスリング部全国選抜大会準優勝

新潟市で開催された上記大会に於いて準優勝の栄を称え、祝賀会を関係者多数の参加を得て開催。

5月14日　父母の会総会（名古屋市民会館）
講演は韓国東方観光ＫＫ社長の趙鐘章先生で『韓国と日本文化の比較』という演題で講演をいただき好評を博して終了。
5月23日～　学校基本方針説明会開催
5月26日　春の父母の会研修(於:日間賀島)
7月6日～7月19日　イギリスのウォーリンガムスクールへ30名語学研修
7月23日～8月6日　イギリスのウォーリンガムスクールより12名来日
7月25日　カシミアハイスクールへ短期留学出発
8月1日～12日　全国総合体育大会開催
柔道、剣道(男女)、レスリング、バスケットの各部が出場し、星城旋風起こる。
8月1日～29日　オーストラリアのウエスレーへ短期留学生10名出発
7月29日～8月1日　特進学習合宿（志賀高原）
9月5日～10月3日　オーストラリアのウエスレーより生徒16名、職員2名来日
9月17日～18日　学園祭開催
9月26日～30日　韓国修学旅行（3号館）
9月28日～10月2日　韓国修学旅行（1・2号館）
群山東高校、群山女子商業との交歓会は友好、親善の目的を果たし帰国
10月9日　体育祭
10月24日～29日　秋季国民体育大会参加
柔道、剣道（男女）、レスリング、バスケット、銃剣道が出場。レスリングの加藤賢三君、バスケットの林優子さん、全国優勝。銃剣道は団体総合優勝飾る。
10月24日～12月5日　秋の地区父母の会開催
11月7日　36周年創立記念式典開催
11月14日　柔道、レスリング、バスケット、銃剣道国体優勝祝勝会開催
12月6日　石田杯柔道、ソフト大会開催
1月18日～20日　韓国群山東高校研修団来日
1月23日　石田杯剣道大会開催
1月29日　推薦入試
2月9日　一般入試
2月15日　卒業生を送る会　シャンソン歌手奥田眞裕美さんを招きシャンソン鑑賞会を開催
2月23日　卒業式
3月13日～14日　石田杯バスケットボール大会開催
3月30日～4月9日　アメリカのバックレースクールより8名来日

星城中学校

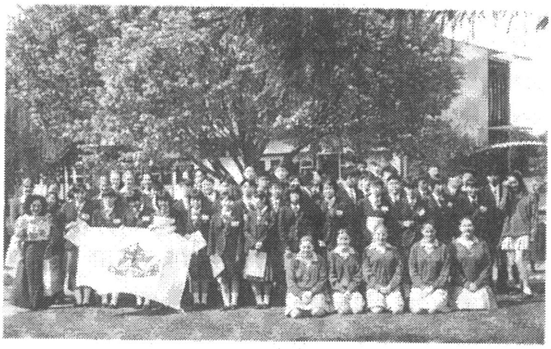
◆1年　「吾何によってあり得るか」の問いかけを基本に、報謝の至誠、感謝の気持ちの育成を図るため仰星館宿泊研修、内観研修を実施。

◆2年　出会う・学ぶ・体験するというテーマの下、日間賀島で漁業、環境、自然、奉仕などについての体験学習を実施。

◆3年　3年間の学習成果の発表と同時に、視野を広めリーダーとしての資質を高めるべく、オーストラリア語学研修を実施。

◆表彰　愛知県児童福祉大会表彰　3年岡本裕太
・豊明市優良児童生徒表彰　3年半谷恵麻

◆感謝祭　テーマ「ＬＩＢＥＲＡＬ」のもと生徒の日常活動の発表の場として実施。

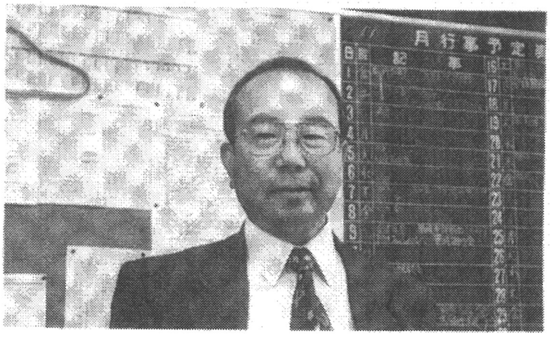


星の城幼稚園

幼稚園は行事に始まり、行事に終ると言えます。先に書きました入園式、卒園式がその始まりと終りです。その中に親子遠足、保育参観、七夕会、父親参観日、運動会、作品展、秋の遠足、クリスマス会、餅つき、おじいちゃんおばあちゃんをお招きする日、生活発表会、雪山遠足などなど大きな行事だけでもこれだけあります。その中で運動会を10年度は高校を借りて行いました。雨天のため、運動場が使えず体育館での開催となりました。現地での練習を一度もやれず心配しましたが、どの園児も伸び伸びと演技や競技に取り組むことができました。また、年長組の「桶狭間出陣太鼓」は体育館の音響効果がよく、例年にましていい音が響き、保護者の方からも素晴らしかったとの声をいただきました。

名英図書出版協会

◎『継続は力なり』



事業部には勤続40余年の職員がいます。永井俊男、営業主任、昭和32年7月常勤職員。名古屋英学塾の出版部が独立してから今年が49年目ですが、現役では誰よりも長く歴史とともに歩いてこられました。時々懐かしそうに古の思い出を口にされることがあります。西川理事も語っていましたが、学園草創の頃は入学式をはじめ、学校も事業部も一緒になって、テキストを売ったり、英語弁論大会等も学園の事業として行っていたそうです。皆が力を合わせて頑張っていた様子がうかがわれます。景気低迷、少子化など厳しい状況が学園を取り巻く昨今、学園方針として「部門間の連携」が取組まれています。教職員が学園草創の頃のように力を合わせ、目標に向かって努力する、そしてそれを継続することが明日の名古屋石田学園の発展に結びつくことになります。

年齢を心配して、営業職から内務職への配置転換の話は今までに何度か永井さんにありました。その度に「営業職は天職と考えているので」と首を横に振り、それどころか巧みに車と口を操って、今でも一級の営業実績を保っています。最後まで頑張ってください。

教学運営室

1　教学運営会議の開催

「魅力ある学校づくりのためのより充実した教育実践の推進」をテーマに2回開催。各部門の現状及び当面する課題を中心に「何を為すべきか」が重視された会議であった。

2　教学会議の開催

「定員確保に向けた教育実践の改善充実と魅力創出」をテーマに9回開催。大学審議会答申及び理事長指示事項を踏まえ議論。学内から基本方針として「学生本位の教育の推進」が、副専攻として「キャリア養成ゼミ」が打ち出された。

3　各部門の研修会・会議等への出席

新学習指導要領等が告示される年度であったことから、各種研修会については「総合的な学習の時間」の理念と取扱方に関する理解を深めていただく方向で進めた。また、高校の「2011年委員会」については、高校の将来構想を構築する第一歩を踏み出した会議であった。

学園表彰

平成10年度の学園表彰者は次のとおりである。

（敬称略）

勤続40年	永井　俊男	名英図書出版協会
20年	藤島　三雄	星城高等学校
〃	相羽　久光	〃
10年	松岡　栄治	〃

事務職員研修会

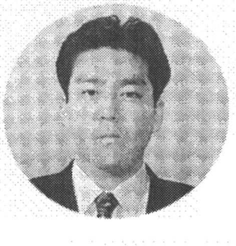
夏の恒例行事となった事務職員研修会は昨年8回目を迎え、8月25・26日男女別に実施した。講師は前年に続き㈱東海総合研究所より招き、40才代以下の29名が参加した。参加者には予め「事前課題」を課し、自分の考え方を講師に伝えてから実施したので、個人的な指導が受けることができ好評であった。

今年度も例年同様、8月下旬実施に向け企画検討中であり、今後とも職員の能力アップとヤル気につながる内容を提供していきたい。

新会計システム

本学園は他学園に先駆けて、平成2年度よりオフコンによる会計処理を行ってきたが、ハードの老朽化と西暦2000年問題対応のため、11年度よりパソコンへ切替えるとともに、新しい会計ソフトを開発した。新システムは従来の印鑑による決裁から、画面を通して行う電子決裁へと変更となり、パソコンが苦手であった管理者も、机上でノートパソコンを操作することが業務となった。また幼稚園から短大まで全部門での処理が可能となった。稼働間もない現在は全員が戸惑いながらの操作であるが、徐々に慣れることで業務改善の成果が期待される。

上山敏広先生（剣道）準優勝



平成11年5月3日（月）憲法記念日大阪市の中央体育館で行われた「全日本都道府県対抗剣道優勝大会」に愛知県代表チームの1人として本校剣道部の監督の上山敏広先生が出場し、準優勝し「愛知に星城あり」を全国に示した。

準優勝の銀杯